

渾身の秀作を収めた『東洋の秋』で、 前川佐美雄賞受賞の栄誉に輝いた島田修三副学長



受賞作品
『東洋の秋』
ながみ書房
(2007/12/5)

本学副学長の島田修三教授(文化創造学部 文化創造学科 表現文化専攻)が、前川佐美雄賞を受賞しました。前川佐美雄賞はながみ書房主催の短歌賞です。前川佐美雄は、明治生まれの歌人です。モダニズム短歌の旗手として、鋭いで超現実主義的な歌や、幻想的・虚無的な美をたたえた歌を創作。2003年、前川佐美雄の生誕百周年を記念してこの賞は創設されました。賞は、前年一年間に刊行された短歌関連の書籍の中から、最もスリリングで優れた歌集・歌書に主として授与されます。2007年度の選考委員は佐佐木幸綱、三枝之、佐々木幹郎、俵万智、加藤治郎の5名。7月14日(月)、東京ガーデンパレスで行なわれた授賞式には、俵万智をはじめとした選考委員も出席。晴れやかな雰囲気の中、表彰が行なわれました。

受賞した島田副学長の歌集はながみ書房発行の『東洋の秋』です。本書の帯には、島田副学長の短歌に寄せる情熱がしたためられています。

「この5年間、私の脳裏を時おりよぎる一節があった。『詞は古きを慕ひ、心は新しきを求め、及ばぬ高き姿を願ひて』という『近代秀歌』の有名な一節である。そんな風に歌っていきたいものだ、と思ったのだ」

教育者として、研究者として、そして歌人として多彩な活躍を展開する島田副学長。『東洋の秋』は、島田副学長の秀作を収めた渾身の一作といえましょう。